

## ビール大麦「ニューサチホゴールド」の 推奨品種決定調査に係る生育調査

現在府内で栽培されているビール麦「サチホゴールド」の種子が2021年秋播種分から供給されなくなります。このため、「サチホゴールド」と栽培特性、品質特性がほぼ同じで原麦リポキシナーゼ<sup>※</sup>が欠失し、鮮度劣化しにくいビールが製造できる「ニューサチホゴールド」への切り替えが検討されています。

当センターでは、現在、「ニューサチホゴールド」の京都府における生育特性を明らかにするため、11月中旬の播種栽培で生育調査を行っています。発芽も良くその後の生育も順調で、2月中旬には幼穂が確認され、3月末時点で出穂が始まっています。

得られた生育データは、今後の推奨品種化及び生産者による本格栽培に向けて活用します。

※原麦リポキシナーゼ：ビール中の脂質を酸化させ、ダンボール臭と呼ばれる不快臭の発生や泡持ち低下を引き起こす酵素



農林センターほ場



亀岡市現地ほ場

生育調査の様子（3月15日時点）

農 林 セ ン タ ー